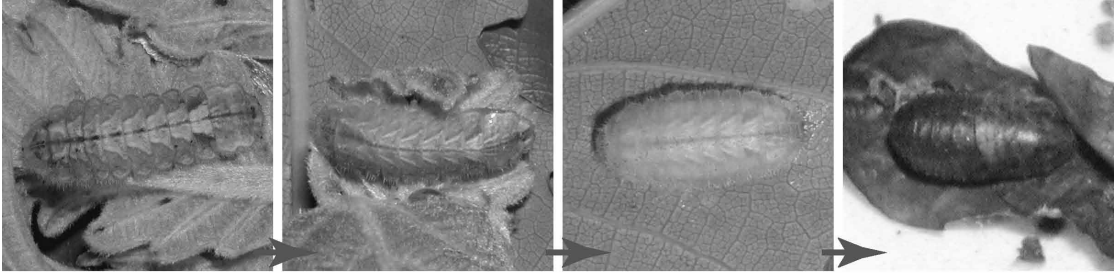


幼虫からさなぎへ

幼虫は種によって個性的な色合いをしてるが、さなぎは一部の種類を除いて、みな黒っぽく地面では目立たないようにしている。



幼虫が

体を丸めはじめ

動かなくなり

さなぎに

はいずれも凶作年でしたが、幸い2004年は豊作との情報（堀師匠の情報）が入っているので期待したいところです。

参考にしてしている文献

- 栗田貞多男 『ゼフィルスの森 日本の森とミドリシジミ族』 クレオ社 3800円
蝶研出版編集部 『ゼフィルスのスーパー採卵術』 蝶研出版 3000円

渡辺 修

今月までの活動・ニュース 年間報告スペシャル 2003

今回も前回から一年の間隔があいてしまいましたので、活動報告は年間報告でいろいろな小ネタ・感想・コメントも含めた拡大スペシャルとしてお届けします。

12月

●道庁ITチャレンジ「北の生き物」プレゼン〔17日〕

道庁環境政策課から「動植物の情報を紹介するホームページを作る」という公募があることを教えてもらう。これは「ITチャレンジ」という事業の一環で、要は情報産業の中小企業に仕事をする機会を与えて技術を高めたり宣伝する機会を道庁がつくろうというもの。当然道内企業限定だが、中小企業の定義は一般的なものなので、「従業員300人未満または資本金1億円未満」というもので、なんだかなあという感じ。零細企業応援にはならんでしょう、これは（ソフトウェア産

業でこれより大きい規模の会社は考えられない）。それにこの公募はいわゆる「プロポーザル募集」で、提案書を書いて、審査の上で1社を決めるというもの。普通は入札により一番安い価格の業者を選定するわけだが、値段が安ければよいというものではない分野などで、企画力で判断するために最近増えてきている。この場合、値段のほうはあらかじめ決まっているので審査の対象にはならない。

今回の場合は、「北の生き物」という道内の動植物を紹介するホームページを作り、GISを用いた情報提供のしくみも合わせて作って、地図を使って市民が見つけた動植物の情報を登録できるようにするというもの。20社近くが応募しての

審査となったが（ウチはソフト制作会社のお手伝いで参加）、問題となるのはやはり審査の内容。各組わずか十分程度のプレゼンであるし、企画書を十分読んでないのも明らかで、終わった後各組から強い不満が出ていた。

結局、旭川の会社が勝ち取ったが、そこが自然関係にあまり詳しくないのでどうしようという話が出るなど、ちょっと後味の悪いものとなった。出来上がったホームページは、<http://kankyo.hokkaido-ies.go.jp/>であるが、こういうページを利用することのないような人がつくるせいか、何とも使いにくいものになっている。自分で入れた情報の確認も出来なければ、入っている情報の一覧を出すこともできない、対象の生き物は限定されていて、間違いもある、といいところがない。オマケでついているゲームや解説なども直接関係ないものばかりで、かなり謎だ。案の定情報もほとんど集まっていないようである。

道庁も今回のような仕事のだし方がうまくいっているのか気になるらしく、後でアンケートが来たが、その結果をまとめたものには参加企業の怒りが爆発していたすごかった。特に審査過程・基準が公表されないことへの批判が強い。これは当然で、基準がはっきりしない分、プロポの方が競争入札における談合よりも仕込みがずっと簡単になってしまう。見積書だけの手間ならいいが、落ちるための企画書づくりやらされるのはたまたまのものではない。その辺はなんか、ペーパーテストでなしに面接や小論文で選ぶというのが、結局は審査者次第、もしかしたら縁故とかもありまくり、というのと似ているかも。（お）

1月

- 札幌市樹脂封入講座[18日、25日、1日]
樹脂封入標本を展示に使ってもらっている札幌市博物館活動センターの行事で、市民向けの封入体験講座。予定人数を大

幅オーバーしてなかなか盛況。写真などは1ページで。

- 釧路行き サルン打ち合わせ・調査開始[26日]

すでに夏前からNPO法人トラストサルン釧路の杉沢さんに話を聞いていた環境省主体の自然再生事業の達古武地域編がようやく動き出すことに。ウチはトラストサルンの「サポーター」として植物調査や分析、再生プランづくりをお手伝いすることになったが、何せこの時期なので、現場は森林とエゾシカの現況確認の最低レベルにして、メインは空中写真の判読とGISを使った分析（どこを優先的に自然再生すべきかをデータから抽出する）を行なうことにした。この頃からこの年は釧路メインモードに突入（ちなみに渡辺修は2003年全ての月に釧路行ってました）。（お）

2月

- 環境省渡辺所長打ち合わせ[18日]
環境省北海道東事務所の渡辺綱男所長がわざわざウチの事務所に来て、ここで分析結果の打ち合わせ。ウチは修&展なので渡辺が多い感じ（笑）。達古武流域全体から再生が必要な貧植生・人工的植生を抽出するロジックを確認。この年度はほぼこの流れで持っていく。（お）

3月

- 釧路自然再生事業第4回実務会合[3-4日]

すでに平成14年度初めから始まっていた会議だが、達古武地域での事業は実質的にこの回がデビューとなる。ほぼ1ヶ月で現地調査が十分にできない中でのGIS分析だったが、環境省のスタッフや中村座長にはほめていただいた。杉沢さんの方もてんやわんやで、なかなかデータがまとまらず、年度明けまでなだれ込

むことになった。(お)

●野幌研究会[8日]

3回目となった野幌研究会。今回はウチは発表はなし。最後に野幌の研究データベースとメーリングリストの話だけさせてもらう。そして、文献の整理をはじめてと思ったが... ちょっと停滞気味かも... すみません。(お)

4月

●北海道友の会総会・講演会[5日]

毎年恒例の春の講演会。今年は北大地球環境研究科の大原雅さん。学生時代から続けている野幌のオオバナノエンレイソウの調査をはじめとするいろいろな調査や分析法について話していただく。今回丹羽が書いている自然史研究の話ともからむが、目録づくりではない植物調査の話が友の会の人たちにも面白く伝わればと思う。(お)

●札幌市標本作成事業契約[11日]

2000年度・2001年度と取り組んだ札幌市博物館の樹脂封入標本事業は、「地域緊急雇用対策事業」というものの一環だったが、その年次が3ヶ年延長となったため、2003年度も復活して取り組むこととなった。ふだんの予算ではできない良質の展示づくりが継続できてありがたい限りだが、事務的にはより複雑・無意味に、雇われる側にとっては相変わらず失業対策の意味がないものままであり、納税者としては少々疑問。まあ使う側なのだから、無能無策な自民政権に感謝しなければならぬかもしれないが... しかし今回の役所向けの説明書(この業務は労働省から都道府県へ、道から市町村へとお金が降りていくので札幌市に国・道からの説明書が行く)には、雇用の適用例として「ごみ拾い」とか書いてあるのを見ると、あまりの馬鹿馬鹿しさに笑っていいものかと思ってしまう。ごみ拾いで、あなた... わざわざ税金投入して半年間ごみ拾いの人を雇うんですかねえ、

その人たちは半年後にはツビ。ごみ拾いの「技術」を身につけて、失業者に戻るわけですが...。実際問題、この事業で雇われた人のほとんどは「お金はあるが仕事がない」という職場で半年過ぎて、そのまま辞めさせられるケースがほとんどのようである(企業にしたら役所にお金をもらって失業者のお守りをしているようなものだから、継続雇用できないのは当たり前である)。まあ、ウチも人のことは言えないが(標本づくりの技術が今後の就職に役立つかという?)、まあ面白いモノづくりの仕事で、博物館の展示としてその成果を残すことができ、市民もその成果を享受できるんだから、かなりいい方の使いみちとは思う。(お)

5月

●滝野公園の環境教育資源調査スタート[6日]

春一番の調査として南区の滝野すずらん丘陵公園の調査がスタート。滝野公園は広大な面積を持つ国営公園で、すでに開園して20年を迎えているが、半分以上がいまだに公園として開放されていない。これらのエリアは現在も着々と開発が進んでおり、順次開園を目指しているのだが、その準備のための調査をアークスの孫田さんと今年度からスタートした。過去にもいろいろな会社が環境調査をしていて、そのデータの整理を挙年度からGISを使って始めていたので、その延長という感じである。孫田さん、当別エコロジーコミュニティの山本さん、高野ランドスケーププランニングの高野さんで進めるプロジェクトチームの形で、環境の調査とその結果に基づく利用者への情報の提供に取り組む。このときが最初の調査で、まだ芽吹き前の公園内を歩いてみたが、その後何回も行くことに。今年はキタコブシやハルニシがよく咲いているなあ。(お)

●アポイ岳植物調査[10-11日]

春先にアポイ岳ファンクラブの田中事

務局長に依頼されて、年に3回の調査会を開くことになった。なんだが中途半端に終わってしまった2001年までの高山植物事業のことが心残りだったので、その時の縁で地域の市民グループに声をかけていただいていたうれしい限りである。しかも、ファンクラブとして呼んでくれるということで、調査費・指導費をグループの浄財から出してまでやることになった（田中さんと高橋さんの図鑑の売り上げが入るはずということで...）。各回は土曜日晩の勉強会と日曜日の調査会というセットで、この第一回は高山植物の個体群調査をテーマに行なった。対象の植物は、せっかくだからという田中さんの勧めもあり、幌満お花畑のヒダカソウ・アポイキンバイ・ヒダカイワサクラの3種を対象に行なった。ヒダカソウは道環境研の宮木さん・西川さんらがすでに取り組んでいるので、パスして良かったのだが、せっかくだからというのでやってみた。話には聞いているものの、キリギソウに比べてもずいぶんさみしいヒダカソウの現況をあらためて感じさせられた。とにかくアポイ岳では開花株も少ない状態である。（お）

● 倶知安・カタクリ調査〔25日〕

4年目を迎えた百年の森でのカタクリ調査。今回、5月の花の時期の調査はファンクラブの方々のみで行なうことになった。そのかわりでもないが、今まではお任せしていた5月下旬に結実状況を調べるときには参加する。実が十分大きくなっていて、熟した朔果が割れるにはまだ時間がかかりそうな状態だった。そのため夕ネの持ち去り実験なども考えていたが、こちらはお預けに。ちなみに今年の開花数は7472株で昨年よりも1000株も増加。まだまだ増えるのだろうか。今年は初めてほとんどの調査を地元の方々だけでする体制を試みたが、あまり人が集まらなかったり、調査のやり方で戸惑ったりと色々と苦勞もされたようだ。だが、市民が調査を自律して行なうこと

は理想的であるし、百年の森の恒例行事になりつつあるので、これからもぜひ続けてほしい（の）。

● 石狩自然塾・第2講〔30日〕

アポイと同様、2000 - 2001年度に稀少植物調査と一緒に取り組んでもらった石狩市の前野さん（このときから結婚されて内藤さんだけ）に、昨年度から始めている「石狩自然塾」の講師を依頼される。今年度は応用編で調査を主体にということで、訪花昆虫調査、毎木調査などのやり方を教えることに。この回は与那覇さん講師の第1講に続く2回目で、花川南の防風林で草本植物の個体群調査をやってもらった。防風林の中は下草刈りで自然状態の草も少なく困ったが、材料にはエゾタンポポとセイヨウタンポポを使い、この2種の生活史や個体群の違いも理解できるようなものにしてみた。訪花昆虫調査の方は時期的に観察にあまり向いていないため、代わりにオオアマドコロなどから蜜をとって糖度を調べる方法を見てもらった。20名余の受講生は皆さんとても熱心で、取り囲まれた調査区の中は植物なくなってしまうかとちょっと心配になるくらいだったが（笑）、楽しんでもらえたかと思う。（お）

6月

● 野幌森林公園パンフ印刷〔5日〕

昨年度手がけた野幌の公園案内パンフレットの改定・増刷。予定通り前回の2万部はなくなっての増刷で、よくはけるなあ后感心。予算はほとんど印刷代なので、小幅の改定だが若干見やすくなり写真を差し替えたり。違いが分かるかな。

● キリギン調査〔7-8日〕

佐藤謙さんと一緒に行なっているキリギン調査も今年で4年目。今年は謙・丹羽・展・大高の4人で調査。行けるだけでも感謝というほどの花の宝庫だが、調査地は急傾斜地で立っているのもやっとの場所なのでけっこうつらい。さらに下山の

沢くだりも大変で丹羽さんの膝がさらに悪化してしまう。

調査入山規制を開始してからギリギシソウの生育状況は回復しているかという
と必ずしもそうでないようだ。今回調査しても、大量盗掘された場所では回復傾向が見られるものの、逆に減ってきている生育地もあり、その原因ははっきりとわかっていない。そんな、いまだ病み上がりの状況にあるギリギシソウなのだが、一方では5年が経過する入山規制の見直しの動きがでているとのこと。こんな山奥で人のエゴを出すのはやめたらいいと思うが、それを許さない地主感覚が抜けない人達の心情は変わることはないのだろうか。(の)

●新規雇用面接[16日～]

札幌市の緊急雇用対策の関係で、新規雇用者の人を3名雇う。ハローワークとホームページに求人を出して、書類審査・面接。2年前もそうだったが、この人を選ぶというのはなかなか気が重い仕事である。半年限定とは言え、あまり気軽にもなれない。応募者もこのご時勢ゆえかなり真剣で、なかには40歳をこえる応募者もいて驚くとともに気が引ける。社長をはじめ会社全員が自分より若いと知ったらどう思うんだろうか。面接も大変なので、なるべく書類でしぼるべきと思うが、これがまた判断がつかない。仕事内容についての小文を求めているのだが、当然みんな真面目に書いてくるし...結局近所でもものづくりに慣れていそうな後藤さん(彼女は滝野公園のマスコットきのたんの着ぐるみに入っていたそうな)と、プログラミングもできる石井君、オーストラリアの生態学系の大学にいて英語が堪能な塚田君、前回の樹脂封入業務をやってもらっていた松岡さんの4名にお願いすることにした。予定より1名多いが、せっかくの各人の技能にしぼりきれず。(お)

●雑誌「クルー」の取材で樹脂紹介[17日]

転職雑誌クルーの記事制作会社からの

調査館通信 24・25号(2004)

取材申し込みで樹脂標本の話をする
ことに。道内新興企業の紹介をする「ユニーク企業・ユニーク商品」というコーナーで、道新の記事でウチを知ったそう。取材を担当しているのはフリーライターの人で、人の話を全く聞かずに思いこみだけで平気で記事を書く記者たちよりずっと、まともな記事を書いてくれたと思う。カメラマンの人はもちろん樹脂の写真もとったが、なぜか別室でやっていたザリガニのトラップづくり(ペットボトル使用)に興味津々だった。この記事、雑誌が雑誌なだけにウチの仕事の宣伝にはあまりならなかったかも。(お)

●石狩自然塾「森の調べ方」[20日]

5月の講座に引き続いて、身近にある紅葉山緑地(孤立林)で、「森の調べ方2」を行なった。はじめに、「砂丘地形に対応した森林の種類」「親木と稚樹の分布の関係」「木の年輪から分かること」をテーマに簡単な解説を行なった。その後、50mメジャーを使って50m×10mの調査区を設け、班ごとに毎木調査のやり方を体験した。また、この中に実生や稚樹の分布を調べるミニ調査区を設けて、どんなものが生えているか調査した。わずか1m×1mでもたくさんの実生や稚樹があることに驚き、またため息も。さらに、年輪採取器(コアサンプラー)を使って年輪コアを採取する作業も体験してもらい、実際に年輪を読んでもらった。(に)

●自然再生大会・応用生態工学会[20日～22日]

釧路湿原の自然再生事業は、環境省としては自然再生のモデルとしたい肝いりの事業で、その宣伝にも力を入れている。その一つとして、この自然再生大会が開かれた。メインのシンポジウムのほか、地元市民グループによるイベントなどが行なわれた。シンポジウムはゲストに宇宙飛行士毛利さんが参加して行なわれた(前の打ち合わせでは女優なら××がいいとかバカな話してましたが)。この毛利さんが結構辛口で、「湿原を再生するとい

う意味が一般の市民に伝わっているのか」と他のパネリストに一人ずつ詰め寄るので、会場にはずいぶんウケていた。一番予定調和っぽい人が全然そう出なかったのが確かに可笑しかった。

このほかトラストサルン主催の市民グループ視点のシンポジウムもあり、アサゲ基金・三番瀬・藤前干潟など全国のそうそうたるグループが集まっていて興味深かった。自然再生ということ自体うさんくさはどうしても抜けきれないが、批判的な検証がこのシンポも含めてもっとあったらとは思った。

このときほぼ同じ日程で、応用生態工学会の現地セミナーも開かれ、達古武での現地説明などを担当した。説明場所が復元試験地などではなく、サルンの苗畑前だったので、参加者には今ひとつ状況がよく飲み込めなかったかもしれない。調査もまだスタート前だったし...セミナー全体の準備は技術コンサルの人たちがほとんど担当していて岩瀬さん以下皆走り回っていた。

●サルン観察会[21日]

再生大会の野外イベントの一つがトラストサルン釧路主催の観察会「どんと来い、達古武!」。調査館はその講師役として参加。今回は、自然再生がテーマなので、元々原生林だった草地や二次林の環境を、歩行性昆虫の種類や量を指標として診断してみるといった内容の調査スタイルで行なった。といっても2時間と短い観察会なので、前日にこちらであらかじめ落としワナのコップを各環境に設置しておき、当日に参加者で手分けして回収して結果をまとめる流れとなった。ちょうど前日から当日にかけて雨が降っており開催が危ぶまれたが、当日朝にサルン理事の英断?で決行が決定、すると始まる頃にはすっかり雨はやんだ。参加者はどんと地元の高校生がやって来て(総勢50名ほど)、にぎやかに行なわれたが、結果はトラップの設置が1日だけなこともあり、はっきり傾向はでなかったが、高校生に

は日ごろ見れない昆虫を観察するよい機会になったようだった。しかし、トラップ回収時にはゴミも一緒に拾っていたが、虫は捕まらずゴミだけが集まった林もあり、再生の前にマナーの徹底が必要なおことを感じさせた。(の)

●道新フォレストウォッチング・小樽奥沢[29日]

道新野生生物基金の小堀さん(昨年度の谷さんは退任)に依頼されて、基金主催の観察会「フォレストウォッチング」の講師役を道川さんとともに引き受けることに。なんとなく引き受けてしまったが、ほぼ毎月の6回、参加者は80名以上で20名ずつを一人で引率ということ、結構大変なものを引き受けてしまった。しかも行く場所はウチでいったことのないところも多い。しかし引き受けてしまったし、新聞広告にも「協力・さっぽろ自然調査館」と大きく書かれてしまったので、取り組む。のっけから丹羽がひざを痛めているためにピンチヒッターで植物友の会の友田さんを頼む。第1回は、小樽の奥沢水源地だが、朝からの雨で大変だった。場所も二次林のパツとしないところだったが、逆にこちらの解説で仕切るようにしたので私には良かったかも(鳥や花がいろいろあってたくさん聞かれても答えられないかもしれないので)。午後は長橋苗圃の展示施設に入ったが、ちょっと謎めいた展示だった。(お)

●丹羽ひざ痛める

6月のキリギシ山調査で右ひざを痛めた。特に軋んだとか打ち付けたということはないが、通院が続くこと2ヶ月余り。キリギシ山の後も痛みをこらえて調査を続けたこともよくなかったか。一昨年にも反対のひざを痛めていることもあり、今にして思えば情けないほど気落ちした。今は全快したが、調査館の仲間には大いに迷惑をかけてしまったので、持病にならないようにしたい。(に)

ウチでの植物同定・観察会講師役は丹羽がメインで、特にいわゆる業務として

の植物調査は全く丹羽頼みなもので、今年はかなり冷や汗をかいた。おかげで自分的には今までになく外には出れたものの（しかしあまり痩せず）、一段と鈍った同定能力では仕事にならんなあと思った。佐藤謙さんには「丹羽君もだめだなあ。山に登れなくてこれからどうする」と言われてしまっていたが、年もいい線になってきているのでお互い慎重にはやっていきたい。（お）

7月

●夕張岳希少植物調査[6日]

昨年に行った夕張岳での調査の続編。佐藤謙さんの調査のお伴で夕張岳に修・展・鈴木でいく。コウパリコザクラの水尾さんを加えた5人で連日の調査登山。コウパリコザクラやコウハリソウなど昨年できなかった希少植物の生育状況を調べる。個人的に夕張岳は大学1年以来、実に11年ぶりの登山で、北海道にきて最初に登った山なので思い出深い場所である。といっても当時は植物もほとんど知らない状態だったので、花がとってもきれいだっただけの印象が強く刻まれているぐらいなのだが…。登った2日間はともに好天に恵まれ、登山としても実に快適であった。調査のほうはというと登山道沿いにはコウパリコザクラの花が数えるほどしかない状態で、花を目的にきた登山者も目を細めてようやくとおまきに見られる程度。登山道から離れるとまだまだ良い状態で残っている場所も多いが、こうした光景を見るにつけ、逆に登山道沿いの荒廃が目につく結果になった。今回はシーズン中ということで山小屋には多数の登山者が利用していたが、その山小屋の管理をしている水尾さんのご主人にも大変お世話になった。（の）

●道新フォレストウォッチング・ウトナイ／苫小牧[13日]

2回目の今回は、丸山まさみさんに応援にきてもらって実施。ウトナイで湿原の植物や野鳥（といってもコブハクチョ

ウが一番ウケていたくらい）を見て、北大の苫小牧演習林（今は北方圏フィールド～という長い名前がついている）を歩いた。演習林ではほとんどが人工林だったので、イチヤクソウやランの仲間が見どころだった。この観察会、料金が2500円（バス代など込み）と安いのが、道新のネームバリューなのか、毎回応募が多く抽選で参加者が選ばれるということで、驚いてしまう。この第1回・第2回あたりだと600人以上の応募で、7倍以上の競争率というから、すごい話である。自然ガイド業でやっていくのが大変なことを思うと、不思議でならない。（お）

●釧路自然再生第5回実務会合[15日]

環境省の会議の5回目にして、最終回。このあと、自然再生法に基づいて「再生協議会」というものが設置されるため、実務会合は発展的解消となる。達古武地域に関しては、今年度何をするのかの話で、会議上で杉沢さんに話を振られてしまったので、傍聴席からながら説明をする。しかし、実際にはまだ調査は始まっておらず、この後の打ち合わせでようやくスタートとなる。（お）

●石狩自然塾[25日]

石狩自然塾の第2,3講に引き続き第5講を担当。今回は、「身近な自然を観察する」というテーマで、歩行性昆虫と訪花昆虫の対象にした。石狩市も札幌東部と同様に残存林が見られるが、こうした残存林での歩行性昆虫相の違いを調べて見ようというもの（6月21日の釧路と似ている）。場所は、周りが住宅街で囲まれ都市公園として整備されている。近くには縄文時代の遺跡があり紅葉山砂丘の一部にあたる。その中に残された小さい林（50m²ほど）2カ所と草地2カ所、それに大きな林の代表として第2,3講の実習場所だった石狩南防風林を加えた5カ所で、落とし穴のトラップを設置した（これは事前（1週間前）に設置）。当日、トラップを回収して数えた結果は違いが鮮明に出た。オサムシ類が見られたのは石

狩南防風林だけで、都市公園の林ではかろうじて森林性のゴミムシが見られただけで、草地にはもちろん草原性のものしかいなかった。結果がはっきりでた分、参加者にはかなりわかりやすかったようで、その違いに驚く方も少なくなかった。元々、公園造成時には、無くなってしまはずの林だったが、希少な植物もあるということで地元住民の意見により残されたそうだが、その植物もいまや姿を消して、林床は一面ササの状態である。そのときには残したつもりでも、小さいことで生じるその後影響を考えなかった結果、いまや林の生き物のつながりも崩れてしまった典型的なケースである(の)。

●アポイ岳植物調査[26～27日]

アポイ岳ファンクラブの調査の2回目。勉強会では前回の結果を個体群追跡の話も交えながら話す。漁師である会長は「明日も3時に起きてコンブ漁の準備だから眠いよ」といいながら、つきあってくれる。調査では、訪花昆虫調査をメインにするが、今ひとつ気温も上がらず虫はなかなか来ない。花のそばの葉っぱにぼんやりたたくアリまで記録している人もいて、少々さみしい調査になってしまった。行く途中の天気の良いときには、写真のようにマルハナバチの訪花もいろいろな花で見られたのだが。「まあこういう調査もありかもしれないなあ」と田中さんにはフォローされたが、... 皆さん今度いい天気の日に登ったときやってみて(笑)。(お)

●釧路達古武森林調査スタート[29～1日]

2003年度の達古武の調査がついにスタート。初日のどしゃぶりの雨の中、杉沢さんと集水域を回りながら、森林調査の場所を決めていく。そのあと、この地域の主要な植生である二次林の推移を見るために、30ヶ所近くの調査区を設定する。

夏の釧路行きは災難が続いた。台風のときはJRがとまって、駅にアルバイト二人に確認に乘いかせたら、もう出ています。のってます」とのこと、あわて

ていたら乗れず。結局おおぞらが出てなくて、夜行のまりもで行くはめに。朝行ってシャワー使うだけで、ホテル代もパー。

十勝沖地震のときは、その日に出発予定で、これもJRの動きが読めず、結局帯広までおおぞらで行って、レンタカー借りて釧路へ行くが途中次々と道がとれなくなって、ルートを模索しながら夜中までかかって到達した。逆に釧路から戻ろうとして戻れなくなった雪印の鈴木さんとは連絡をとりながら、本別ですれ違う。トラック運転手のようで、携帯の便利さを感じました。

釧路は現地調査にトラストサルの富井さんと環境省の田畑さんに毎回のように手伝っていただき、感謝。本当に助かりました。富井さんの家やなかまさんの宿にも泊まらせてもらって、久々に長期フィールドを楽しませてもらった。(お)

8月

●道新フォレストウォッチングー岩見沢利根別休養林[10日]

3回目は岩見沢にある利根別休養林で、街の郊外にある低地に残された自然林で岩見沢市民に親しまれているようで、札幌でいうと野幌森林公園のような存在である。フォレストウォッチングで行く場所は初めてのことが多いのだが、ここも(当然下見はしましたが...)。森を見て驚いたのは、沢沿いに残っている森林はほぼ原生林に近い状態で残っていて、野幌にも勝るとも劣らないものであったということ。直径1m近い木が何本も見られ、都市周辺でかつての自然を垣間見られる貴重な場所である。毎回、20人一班のパーティでの説明は苦勞するが、とりあえず原生的な林での森林浴は間違いなく気持ち良かったと思う。(の)

●釧路カラマツ林調査スタート[18日～]

達古武の調査の一つとしてカラマツ林の再生計画のための調査がスタート。これは地元が所有していたカラマツ林が伐採・売却されそうになったのを環境省が買

い取って所有地としたもので、ここで急激な伐採をせずに、徐々に自然林にしていきたいという目的でどうやっていくかを調査しはじめた。

この林は大変手入れの良い林で、きれいな反面広葉樹の稚樹も少なく、少々やりにくい。ほっとけばいい気もするが、そうでなければどう工夫が必要か。とりあえずシートトラップをつけたり、ひたすら稚樹調査をとって、分析してみることにする。(お)

●西野フォレスターズクラブ観察会[30日]

西野フォレスターズクラブ主催の観察会「暗やみのいきものたち」を担当。札幌の住宅街に接する西野の森で野ネズミを捕獲して観察をしようというもの。親子連れを中心に20名ほどが参加した。このときは前日から来てもらい、一緒にエサや生け捕りワナを設置し、翌日に皆でワナを確認してもらった。夕方から朝にかけて雨が降っており、設置は雨が降る中でも作業になった。参加者には「こんな雨でかかるのかな」「こんな雨でかかったら中で生きていられるのかな」など心配の声が多かった。が、翌日は雨もやみ、25個かけたワナのうち一つにアカネズミがかかり、子どもたちもちゃんと観察することができた。簡単に情報を手に入れられる時代なので知識はあっても、実際の生きた姿を目の前にするとやはり感じ方が変わるらしい。動物への関心は高いことをあらためて感じさせられる。ちなみに、今年度から野ネズミの捕獲許可も必要になったため、こうした野ネズミの観察会も少々面倒になってしまった(の)。

●アポイ岳調査[30-31日]

アポイシリーズラストは、結実の調査。実が花に対してどのくらいの割合で付いているかを調べて、その植物の基本的性質を明らかにする。赤い実のきれいだっただけのヒロハヘビノボラスなどをチョイス。ホソバトウキのタネの細かさには皆うなっていたが、3回の中では一番デー

夕が取れた気がする。皆さんお疲れ様でした。結果はまた改めて。(お)

9月

●道新フォレストウォッチング[7日]

羊蹄山のふもととの真狩自然の村を歩く。主に実の話解説のネタにするが、8～10月はどうしても実の話ばかりになる気が。途中のトカリネズミの死体とその解説が妙にうける。(お)

●造園学会北海道支部会[12-13日]

滝野公園で行なっている仕事の内容を発表する。最後の学会発表は4年近く前と久々だったので、しゃべりはぼろぼろ。時間に追われはしょりながらで何とかやり終える。途中、聴衆の意図を感じる咳ばらいに動揺してしまう。練習を怠った結果で反省。学会自体は全体の発表数も少なく、ほとんど大学か研究機関所属の人の発表。民間は少数で、応用的な分野にしては少々さびしいものだった(の)。

●東大雪ガイド養成講座[13-15日]

恒例になっているひがし大雪博物館のガイド養成講座だが、今年はいつもの7月ではなく9月の最終回を担当。「林床に生きる植物」というテーマで講演、実習を行なった。講演は「さまざまな森と林床」「動植物からみた林床という環境」「代表的な林床植物」「林床植物の生態」「まとめ」という順でお話した。実習の方は、季節的にちょっと厳しい面もあったが、近くの森で植生調査を班ごとに体験してもらった。一見ササばかりに見える林床にもさまざまな幼植物が生育していること、地表面のわずかな凹凸(倒木や岩、小沢など)があると種組成が多様になることを理解した。前日まで台風で荒れていたこともあって参加者は少なめだったが、当日はスカッとした秋晴れに。冷え込みが早かった今年はすでにかなり紅葉が進んでいて、カエデやモミジなどがとてもきれいだった(に)。

スペース尽きた!! 続きは次号で!!



俱知安カタクリ結実調査(5月)



石狩自然塾林床調査(5月)



岨山いつもの岩(6月)



岨山キリギンソウ調査(6月)



岨山エゾスカシユリ(6月)



釧路達古武沼と苗畑(6月)



釧路自然再生大会・学会(6月)



豊平川水生昆虫調査(6月)



石狩花川の稚樹調査(6月)



道新FW小樽奥沢(6月)



雪印種苗輪厚圃場(6月)



夕張岳希少種調査(6月)



夕張シソバキスミレ(6月)



夕張りシリゲング(6月)



アポイ岳調査小屋前(7月)



イブキジャコウソウ訪花調査(7月)



キンロバイ訪花中(7月)



いつもいるマムシ(7月)



達古武・塘路64シラカバ植林(8月)



釧路クジャクチョウ(8月)



達古武森林樹齢調査(8月)



達古武森林調査(8月)計測



なぜか林道に馬(8月)



道新FW利根別休養林(8月)



達古武オオセンチコガネ(8月)



滝野ササ刈りプログラム(8月)



西野ネズミ調査説明(8月)



西野つかまっちゃった(8月)



ヘビノボラズ結実調査(8月)



アポイキノコ狩り?(8月)



釧路シードトラップ設置(8月)



カラマツ林開空率調査(9月)



東大雪林床調査講座(9月)



達古武虫除け調査(9月)



達古武野ネズミ調査(9月)



釧路カラマツ検討会(10月)



滝野公園調査(10月)



道新FW宮島沼(10月)



滝川花卉資源収集(10月)



頒価=500円